

# 和泉そぞろ

Izumisozoro

## 和泉府中を彩る伝説の女傑たち

神功皇后伝説から和泉式部、赤染衛門、桑原のおばあさんまで

和泉国の中心として栄えた府中。平安時代を代表する天才女流歌人の和泉式部と赤染衛門が当地を訪れています。和泉国の国名の由来となった和泉清水は神功皇后の伝説から。また雷井戸も桑原のおばあさんが由縁。和泉の女傑たち(!?)の物語に触れるまち歩きです。

### ② 泉井上神社

社伝によれば神功皇后が仲哀天皇2年(200?)に当地に行啓した時に、急に泉ができ、清水が湧き出したので、それを瑞祥として喜び、霊泉として祀ったといわれています。これが「和泉」の国名の由来といわれています。大阪府指定史跡の「和泉清水」は「国府清水」とも呼ばれ、農業用水として使われました。また甘露として知られ、豊臣秀吉も大坂城に運ばせて、茶の湯に用いたといわれています。

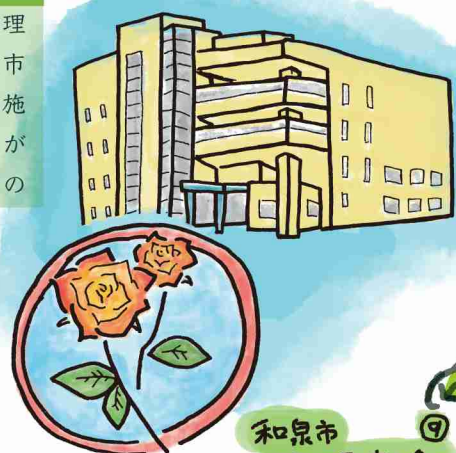
### ① 和泉市いずみの国観光おもてなし処

和泉市の観光情報・地場産品を揃えています。  
[時間]10時~18時 [休日]月曜日(祝日の場合は翌日)  
[電話番号]0725-40-5552



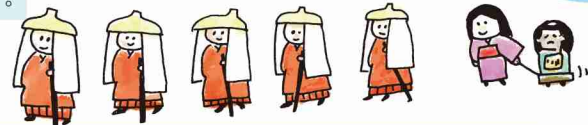
### ⑨ 和泉市コミュニティセンター

多目的ホールをはじめ、会議室、和室、調理室、運動室、創作活動室、視聴覚室など、市民の交流の場や生涯学習の拠点となる施設です。センター前には「アンネのバラ」が植樹されています。『アンネの日記』作者のアンネ・フランクの短い生涯を悼み、愛と平和を願うアンネの形見として生まれて、平和教育の実践として世界中に植樹されています。



### ⑧ 井ノ口王子跡

熊野古道九十九王子の跡です。本来の井ノ口王子は石碑付近の北側にあったといいますが、明治時代に遷され、泉井上神社に合祀されました。和泉市内には9番目の篠田王子、10番目の平松王子、11番目の井ノ口王子があります。



### ⑦ 横尾川

和泉市横尾山町の横尾山西麓付近を源流とし、和泉市内を北上し、大津川に合流し、やがて大阪湾に出ます。古代は横尾川(大津川)を北上していくと、そこには和泉国府の外港である「小津の泊」(泉大津界限)がありました。紀貫之『土佐日記』でも小津の泊の記述があります。江戸時代にも川舟が行き来していたといわれています。

### ⑥ 桑原集落

桑原集落は横尾川も近く、水路が今もあります。川舟から直接、民家に入る護岸の階段などもあって見ものです。

### ③ 和泉五社総社

元正天皇の霊龜2年(716)、河内国に珍努宮(ちぬのみや)を造営し、同国の大鳥、和泉、日根の三郡をさいて特別行政区画の「和泉監(いずみのげん)」が当地に置かれました。珍努宮には元正天皇(717年、719年)や聖武天皇(744年)が行幸していますが、所在地は不明です(比定地として府中や葛の葉町大園遺跡説があります)。その後、孝謙天皇の757年(天平宝字元年)に「和泉国」となり、府中は地方行政の中心地となりました。それに伴って和泉国内にあった五大社の大鳥、穴師、聖、積川、日根が勧請されました。現在の本殿は慶長10年(1605)に豊臣秀頼が片桐且元を奉行として再建したと伝えられるもので国の重要文化財に指定されています。

### ④ 和泉国府廳趾の碑

御館山児童公園の一角にあります。「府中」の地名は和泉国府が当地に置かれていた事に由来します。長保元年(999)に和泉守になった橘道貞の妻が、あの「和泉式部」(天元元年・978?~没年不詳。本名不詳。和泉式部は通称で夫の任国と父の官命をあわせたものです)です。しかし夫婦仲は悪く、離縁し、和泉式部は冷泉天皇の第三皇子・為尊親王や、その弟の敦道親王と熱愛しました。藤原道長からは「浮かれ女」、同僚女房の紫式部からは「恋文や和歌は素晴らしいが素行には感心できない」と評されています。しかし情熱的な

恋歌は大歌人・藤原公任に賞賛され、女流歌人の赤染衛門と並び称されました。百人一首「あらざらむこの世の外の思ひ出に今ひとたびの逢ふこともがな」は有名です。また赤染衛門(956?~1041?)も息子の大江挙周(たかちか)の和泉守任官に尽力して成功させました。百人一首は「やすらはて寝なましものをさ夜ふけてかたぶくまでの月を見しかな」。奇しくも恋歌の名手として知られる女流歌人2人が和泉国に関わっています。

### ⑤ 無量山西福寺(雷井戸)

寺伝では鎌倉時代初期に東大寺再建に尽力した俊乗房重源上人が中興の開基といわれています。また伝説によると重源上人が当地で雨乞いの儀式をしていると、本堂隣の井戸でおばあさんが洗濯をしていました。すると雨乞いの効果で井戸に雷が落ちたのですが、なんとおばあさんは鹽(たらい)で井戸に蓋をして雷神を閉じ込めました。そして雷神は「もう2度と桑原には落ちない」と約束するので、おばあさんは逃がしてやりました。以後、「クワバラ、クワバラ」と唱えれば雷は落ちないとされ、日本全国各地でその風習が続いています。

まち歩きマップ「和泉そぞろ」は「いずみ市民大学」の「観光おもてなし学科」の資料として作成されました。掲載されている情報は令和2年(2020)12月現在のものです。和泉のまち歩きのさいにご利用ください。

プロデュース | 陸奥賢[観光家/大阪まち歩き大学学長] コーディネーター | 宝楽陸寛 [NPO法人SEIN/コミュニティLab所長] イラスト&マップ制作 | 田中保帆 協力 | いずみ市民大学観光おもてなし学科受講生 (izmyuOKAZAKI/さや鼻 / 多田ひとみ/HOSOKAWAyoutoku) この印刷物は、1,000部印刷し、印刷単価は一部28円です。

